

エンカウンター（ENCOUNTER）

第 43 号

平成17年11月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

スポルジョン「朝ごとに」より（4）

5月7日

多くの人がついてきたので、彼らを皆いやし、…

（マタイ12・15）

なんと多くの恐ろしい病人がイエスの目に映じたことだろう。しかしながら、イエスが彼らを嫌悪せず、忍耐深く一人一人の面倒を見られたことを、この記事を読んで知る。彼の足もとには千差万別の病症が現れた。膿の出ている腫瘍もあったであろう。しかし主は、どのような新しい型の悪化した病いにも常に備えられ、あらゆる難病にうち勝たれた。どの方向から火矢が飛んで来ても、常にそのはげしい炎を消された。熱病の暑さ、水腫の寒さ、中風のものうさ、狂気の怒り、癩病の汚れ、眼炎の暗さも それらはすべて彼の御言葉の力を知っており、彼が命じられると逃げ出した。彼はその戦場のあらゆる場所において、悪に対して勝を得、救い出された囚人の忠誠の誓いを受けられた。彼は来たり、彼は見、彼は至る所で勝を得られた。

今朝もまたそうである。私の容態がどうであろうと、愛する医者は私をいやすことができる。また、今私が祈りの中に覚えている他の人の病状も、それがいかなるものでであろうと、イエスは必ずその罪の病をいやすことができると確信する。主のいやしの力を思い出

すとき、私の子供、友人、愛する者のすべてに希望を持つことができる。私自身のことにして、私の罪と、弱さとの戦いがいかに激しくとも依然として勇気を奮い起こす事ができる。地上にありし日、病者を訪うていやされたイエスは、今もなおその恵みを分かち与え、人の子たちの中に奇跡を行なっておられる。直ちに心を定めてイエスのみもとに行こうではないか。

今朝イエスがいかにして魂の病をいやし、人々に知られるようになられたかを考え、彼を讃美したい。それは私たちの病を御自身の身に負うことによってであった。「その打たれた傷によって、われわれはいやされた」のである。地上の教会はこの愛する医者にはいやされた魂で満ちている。そして天に住む者たちも「彼らを皆いやされた」と告白する。それゆえ、わが魂よ、彼の恵みの徳を世に語り伝えよ。「これは主の記念となり、また、とこしえのしるしとなって、絶えることはない。」

6月8日

これはその戦いが神によったので、多くの者が殺されて倒れたからである。（歴代志上 5 . 23）

主イエスの旗のもとに戦える戦士よ。この聖句をきよい喜びをもって味わえ。なぜなら神の戦いであるなら確実に勝を得ることができるとは、昔も今も変わらぬことであるからである。ルベンびとと、ガドびととマナセの半部族はかろうじて四万五千の戦い得る者を召集したに過ぎなかったが、ハガルびとの戦いに於いて、彼らは「十万人の人」を殺した。なぜなら「彼らが戦いにあたって神を呼ばわり、神により頼んだので神はその願いを聞かれたからである。」

神が人を救われるのは、数の多少によるのではない。私たちはいかにわずかであろうと、主の御名によって出陣すべきである。なぜなら万軍の主が私たちの隊長として共にいたまうからである。...

愛する友よ、あなた方が内外の敵と戦い、教義上の、あるいは実際上の誤謬と戦い、高き所あるいは低き所の霊的な悪と戦い、悪魔及びその仲間と戦うとき、あなたは主の戦いを戦っているのである。そして神が敗北されない限り、あなたは敗戦を恐れる必要はない。敵が数に於いてまさるともひるむな。困難や不可能に会うとも臆するな。傷や死に直面しても退くな。御霊のもろ刃のつるぎをとって打て。そうすればしかばねの山を築くことができる。この戦いは主の戦いである。主はその敵を私たちの手に委ねたもう。足を踏みしめ、こぶしをかため、心を強くし、燃えるような意気をもって敵に向かえ。そうすれば悪の大軍は風前のもみがらのごとく飛び去るであらう。

起てよ！いくさはやがて終り
とわのかちうた たかく歌い
つきぬいのちの 冠をうけ
さかえの君と ともに治めん

6月25日

高い山にのぼれ (イザヤ40・9)

キリストを知る事は、あたかも高い山に登るようなものである。ふもとにいるときには、その極めてわずかしか見ることができない。山は実際の高さの半ばぐらいに思われる。狭い谷間に立っていると、山麓の小川にそそぐ小さき溪流のほかは何も目に入らぬ。

はじめの一峯を登り尽くすと、谷は長くなり広がってあなたの脚下に開ける。更に高く登るとき、あなたは四、五マイル四方を見下ろし、眼下の光景は一層すばらしいものとなるだろう。そしてなお登りつめるならば、展望は更に拡大する。

かくてあなたが絶頂に達し、そこに立ちて東西南北に目を放つならば、足下に国中のほとんどが横たわるのを見るであろう。...

これらすべてがあなたを喜ばせ、あなたはかく言うだろう。「ここまで登るとこんなに素晴らしい光景が見られるとは！」と。

クリスチャンの生活もこれと同様である。私たちが始めてキリストを信じたときは、ほんのわずかに彼を見るだけである。そして私たちが高く登れば登るほど、更に彼の美を見いだすのである。

しかるに誰がその頂上をきわめたか。誰がキリストの測り知れぬ愛の高さと深さを知ったであろうか。パウロは老境に入り、白髪をまじえるようになってからローマの獄中において、私たち以上の確信を持って「わたしは自分の信じてきたかたを知っている」と言った。彼にとり一つ一つの経験が丘に登るようであり、試練の一つ一つが新しき山頂にたつ思いであった。

かくして彼の死は山の絶頂に絶つようなものであり、そこにおいて彼は、己が魂を委ねた主の真実と愛のすべてを展開し得たのである。

愛する友よ、起ちて高き山に登れ。

7月15日

火は絶えず祭壇の上に燃え続け、これを消してはならない。

(レビ記 6・13)

個人の祈りの祭壇の上にたえず火を燃やせ。これは信仰の生命である。教会の祭壇も家庭の祭壇もここからその火種を取るのだから、この火をよく燃やさねばならぬ。密室の祈りは生ける実践的な宗教の神髄であり、証拠であり、バロメーターである。あなたの犠牲の脂肪(あぶら)をここに燃やせ。あなたの密室の祈りを出来る限り規則正しくし、外部からじゃまされない頻繁な祈りとせよ。熱心な祈りには大きな力がある。あなたは祈る課題がないというのか。主のからだなる教会、伝道、あなた自身の魂、あなたの子供たち、親せき、国家、全世界にわたる神の御わざ、真理の道について祈っていたきたい。...

この聖句はまた、心の祭壇にも適用できる。これは実に黄金の祭壇である。神はその民の心がご自身に対して炎々と燃えているのを見ることを好まれる。神の前に、愛に燃える心を捧げ、その火が決して消える事のないよう神の恵みを求めようではないか。なぜなら主が燃やし続けたもうのでなければ、自らの力で燃え続ける事は不可能だからである。多くの敵はそれを消そうとする。しかし、もし見えざる手が塀の向こう側から聖なる油を注ぐならば、それは高く高く燃え上がるのである。聖句をもって私たちの心の火を燃やす燃料としようではないか。それは燃えている炭である。説教にも出席しよう。しかし、特にイエスと共にあるために多くの時間を割こうではないか。

7月18日

これらのものはその旗にしたがって、最後に進まなければならない。
(民数記 2・31)

イスラエルの軍勢が前進するとき、ダンの宿営の者はしんがりをつとめた。ダンが軍の最後尾に進んだ。しかし、まっ先に進む部族も、等しく軍勢の一部なるがゆえに位置を気にする必要はない。彼らは同じ火の柱雲の柱に導かれ、同じマナを食し、同じ霊の岩から飲み、同じ嗣業を望みつつ旅を続けた。

わが心よ、たとえおまえが列の最後尾につく最も小さきものであると、勇気を出せ。おまえが軍隊の一員となり、先頭に進む者と同様に進むのは、おまえの特権である。誰かがイエスのために卑しい仕事をしなくてはならない。それならばそれに私が当たるのがなぜいけないのか。...

火のごとく燃える魂は前人未到の地に突入して新しい真理を学び、多くの魂をイエスのもとに獲得するかもしれぬ。しかしながら用心深い魂は、教会にその昔の信仰を思い起させ、息の絶えるばかりの神の子達を回復させ得る。すべての地位にはそれぞれ果すべき義務がある。そして遅々たる歩みの神の子たちも、その歩みが全軍の祝福となっていることを見出す。...

経験をつめるクリスチャンは、信仰、知識、また喜びにおいてしんがりの、憐れな、疑い深い、元気がない、動揺せる人々を助ける事ができる。彼らを見捨ててはならぬ。それがためにはよく訓練された聖徒達がしんがりであって、旗をかかげていなければならない。

わが魂よ、今日、心して列後の者を助けよ。

7月24日

かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救いを見なさい。（出エジプト 14・13）

この御言葉は、窮境に陥り進退窮まれる信者に与えられた神のご命令である。信者は退くことも進むこともできず、左右共に閉ざされている。どうすればよいのか。主は彼に「かたく立て」と言われる。かような場合、多くの怪しい忠告者がとかくの意見を持ち込んでくることであろうが、彼はただ主の御言葉のみに耳を傾ければよい。失望はかくささやくであろう。「そこに倒れて死ね。すべてをあきらめよ」と。されど神は私達が勇気を奮い起こし、最悪の事態に立ち至ってもなお、神の愛と真実とを喜ぶことを望みたもう。…神はあなたに向かい、力より力へ進むことを命じていたもう。ゆえにあなたはまっすぐに前進せよ。…

しかしもしあなたが、しばし立ち止まることを命ぜられたならばどうであろうか。それは時至りてあなたが更に大なる躍進を遂げるために、あなたの力を新たに作る目的を持つ。性急は叫ぶ、「何かしろ、奮い立て、じっと止まって待つのは怠惰だ」と。私達はぐずぐずせず何かをしなければならぬと考える。そして主を見上げることをしない。主は何かをなされるというだけでなく、すべてのことをなし得たもう。…信仰は、自負にも失望にもおくびょうにも性急にも耳かたぶけず「かたく立て」との神のみ声に耳を傾け、磐石のごとくきぜんとして立つ。「かたく立て」 まっすぐに立ち、直ちに行動に移れるように準備し、続いて下る命に備えよ。忍耐強く導きの声を待て。さらばまもなく神は、モーセかイスラエル人に言われたようにはっきりと、あなたに「進み行け」と言われるであろう。

8月11日

ああ過ぎた年月のようであつたらよいのだが…

(ヨブ 29・2)

多くのクリスチャンは過去を顧みて喜ぶが、現在を見て不満に思う。…かつて彼らはイエスに近く暮らした。しかし今は、イエスのみもとからさ迷い出ていることを感じて、「ああ過ぎた年月のようであつたらよいのだが…」と言うのである。彼らは確信を失った事、平安が得られぬこと、祈りや礼拝に喜びのないこと、心に親切のないこと、神の栄光に対する熱心を持たぬことを嘆く。

かようないたましい状態に陥った原因は、種々あげられるだろう。それは祈りを怠ることによるかもしれぬ。なぜなら密室をおろそかにすることは、すべての靈的衰退のはじめであるから。それはまた偶像崇拜のためかもしれぬ。心が神以外のものに向けられると、天のものの代わりに地上のものに執着するから。…

クリスチャンよ、もしあなたが「過ぎた年月のよう」でないならば、ただ以前の幸福が帰ってくることを願うのみならず、直ちに行きて、あなたの主を捜し、彼にあなたの悲しきさまを告げよ。

更に彼に近く歩むために、彼の恵みと力の助けを求めよ。彼の御前に自らを低うせよ。さらば彼はあなたを引き上げ、もうひとたび彼の御顔の光を楽しむことを得させたもうであろう。

むなしく座して嘆息し、悲嘆にくれるな。愛する名医のある限り、望みはあるのだ。否、いかにひどい病いであろうと、確実に回復する見込がある。

8月14日

主よ、あなたはみわざをもって私を楽しませられました。

(詩篇 92・4)

あなたは自分の罪がゆるされ、キリストが罪の全きあがないを成就されたことを信ずるか。もしそうであるならば、あなたはなんたる喜ばしきクリスチャンであろう。あなたは日常の試練や苦難の上に超然として生活すべきである。罪ゆるされたゆえに、どのようなことがあなたの上に起ころうと恐れるに足らぬ。…

あなたの愛を適当な手段で表わせ。あなたを愛された主の兄弟を愛せよ。どこかにメピボセテのような不具者がいるならば、ヨナタンのゆえに彼を助けよ。もしあわれな試練に会える信者がいるならば、彼と共に泣き、彼の十字架をになえ。あなたのために泣き、あなたの罪を負われた方のゆえに。あなたはキリストのゆえに無代価のゆるしを受けた。ゆえに行きて他の者に罪のゆるしの喜ばしき報せを伝えよ。この言葉で言い尽くせぬ祝福を1人で受けて満足しているのではなく、十字架の物語を広く宣べ伝えよ。神聖な喜びと神聖な勇氣はあなたをよき説教者となし、この世のすべての場所が説教の講壇となるだろう。喜びにあふれし聖潔は、説教を最も力あるものとなす。しかし主が自らそれをあなたに与えたまわねばならぬ。世の中に出かける前に、今朝それを求めよ。